

日本国環境省とアジア開発銀行との間の

環境協力に関する覚書の延長

(仮訳)

本延長文書は、「日本国環境省とアジア開発銀行との間の環境協力に関する覚書」(2014年6月25日付)を延長するものであり、日本国環境省(所在地:日本国東京都千代田区霞が関 1-2-2)とアジア開発銀行(所在地:フィリピン国マニラ首都圏マンダルヨン市 ADB 通り 6)の間で、代表者である地球環境審議官と知識管理・持続可能な開発担当副総裁により、2023年6月19日に署名された。

以下、日本国環境省とアジア開発銀行は、個々を指す場合は「一方」、双方を指す場合は「両者」という。

1. 覚書は、2014年6月25日に、日本国環境大臣とアジア開発銀行総裁により署名された。覚書の当初の期間は2014年6月25日から3年間である。
2. 両者は、日本国環境省地球環境審議官とアジア開発銀行知識管理・持続可能開発副総裁が覚書の延長文書に署名することで、2017年3月2日、2020年5月19日に覚書を計6年間延長した。覚書に基づき、両者は環境保護及び改善のために様々な分野で協力してきた。
3. 本延長は、覚書の第16節に基づくものである。両者は、日本国環境省地球環境審議官及びアジア開発銀行知識管理・持続可能開発副総裁により、覚書を更に2026年6月18日までの3年間延長することを合意した。
4. 日本国環境省の連絡先は地球環境局脱炭素移行推進・環境インフラ担当参事官とする。アジア開発銀行の連絡先は気候変動・持続可能な開発局環境課長とする。

5. 付属文書である今後3年間の行動計画は、必要に応じて更新することができる。

2023年6月19日に、マニラにおいて英語にて署名した。

日本国環境省:

アジア開発銀行:

小野 洋

地球環境審議官

ウーチョン ウム

総局長兼知識管理・持続可能な開発担当
副総裁

日付: _____

日付: _____

日本国環境省とアジア開発銀行（ADB）の間の

環境協力における行動計画 2023-2025

ワークプログラムは、LOIの目的を支援し、環境分野における相互協力を強化、促進、発展させるものである。協力分野は、持続可能な開発目標（SDGs）、気候変動に関するパリ協定、などに基づく行動を支援する。

<p>1. JCM 日本基金 (JFJCM)</p>	<ul style="list-style-type: none">両者は、JFJCMのポートフォリオを拡大し、JFJCMが資金支援する新規プロジェクトの開発を加速させる。両者は、対象国の職員及びプロジェクト開発者に能力開発及び技術情報を提供することにより、新規JCMパートナー国及びグリーン水素等の新分野でのJFJCM資金支援プロジェクトの開発努力を強化する。両者は、ADBツールキットを用いて、持続可能な開発目標（SDGs）に対するJFJCMプロジェクトの貢献度を評価し、発信する。
<p>2. 気候変動緩和と国際炭素市場</p>	<ul style="list-style-type: none">両者は、アジア及び太平洋地域におけるパリ協定第6条に沿った新たな市場メカニズムの運用に向けた開発途上加盟国（DMC）の準備を強化することにより、国際炭素市場の促進に協力する。両者は、2023年のG7気候・エネルギー・環境大臣会合で採択された「十全性（質）の高い炭素市場の原則」の実施に、経験の共有を含め協力する。両者は、JCMと新たな市場メカニズムのもとでの気候変動の緩和活動とSDGsとの連結の促進に協力する。両者は、日ASEAN気候変動アクション・アジェンダ2.0及び緩和と透明性に関する新しいプログラムやイニシアティブを含む、それぞれの業務における連携/パートナーシップ機会を模索する。

<p>3. フロンのライフサイクルマネジメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 両者は、フルオロカーボン・イニシアティブ（IFL）のもと、ADBのKSTA6730等を通じて、中・下流の冷媒管理及び低地球温暖化係数（GWP）冷媒への移行を含むフロンのライフサイクル管理を促進するための協力を強化する。 ▪ 両者は、DMCにおける政策・法的枠組の構築と実施、代替フロン（HFC）のインベントリ及び国が決定する貢献（NDC）に基づく関連目標の作成、フロンの管理のための先進技術の利用を支援する。
<p>4. メタン排出削減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 両者は、環境省によるJFJCMへの追加拠出を用いて、特に廃棄物分野において、日本国環境省からJFCMへの追加の拠出金を活用して、準好気性埋立構造の福岡方式を含むメタン排出削減に寄与するプロジェクトの開発を促進する。 ▪ 両者は、農林水産省とADBとの協力覚書に基づく協力活動に沿って、農業分野におけるメタン排出削減のためのプロジェクト開発の可能性を検討し、食料安全保障の強化に貢献する。
<p>5. 気候変動適応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 両者は、AP-PLAT（アジア太平洋気候変動適応情報プラットフォーム）を通じて、気候リスクデータセット及び気候変動影響評価の結果を相互に及びより幅広い関係者と共有するために協力する。 ▪ 両者は、プロジェクトの計画、設計、実施及びモニタリングにおける適応策の主流化のためのツールや方法論など、それぞれの気候変動リスク管理の枠組の改善に関する経験を共有する。 ▪ 両者は、気候変動適応とレジリエンスに関する能力構築と知識共有に協力する。 ▪ 両者は、適応とレジリエンス、損失と損害等に関する新しいプログラムやイニシアティブを含む、それぞれの業務における潜在的な協力パートナーシップの機会を模索する。
<p>6. 脱炭素かつレジリエントな都市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 両者は、対象都市における多様なステークホルダーの関与を結集し、気候変動、汚染及び循環経済を含

	<p>む都市課題に包括的かつ相乗的な支援を提供することを目的とした「クリーンシティ・パートナーシップ・プログラム（C2P2）」の地域での実施に協力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 両者は、世界の脱炭素かつレジリエントな都市に関する知見の共有に協力する。
7. 大気質管理	<ul style="list-style-type: none"> 両者は、東アジア酸性雨モニタリング・ネットワーク（EANET）における日本との共同出資プロジェクト“Methodology Study for Development of LCS Hybrid Air Quality Monitoring Network (HAQMN)”（低コストセンサー（LCS）を用いたハイブリッド大気監視ネットワーク（HAQMN）構築のための手法に関する研究）を推進する。 両者は、ADB が立ち上げたアジア・クリーン・ブルースカイ・プログラム（ACBSP）と連携し、大気質管理に関する能力構築に協力する。
8. 循環経済及び廃棄物管理	<ul style="list-style-type: none"> 両者は、知見の共有、研修の実施、出版物の作成、廃棄物管理に関する助言を通じて、アジア太平洋諸国の能力構築支援に協力する。
9. プラスチック汚染	<ul style="list-style-type: none"> 両者は、政府間交渉委員会（INC）における国際的な審議、大阪ブルー・オーシャン・ビジョン、G20 海洋プラスチックごみ対策実施枠組に沿って、プラスチック汚染への対処に協力する。 両者は、東アジア・ASEAN 経済研究センター（ERIA）の海洋プラスチックごみに関する地域ナレッジセンターに、海洋プラスチックごみに関する情報、知見を提供する。
10. 環境的に持続可能な交通（EST）	<ul style="list-style-type: none"> 両者は UNCRD（国連地域開発センター）の調整のもと、アジアにおける環境的に持続可能な交通フォーラム（EST フォーラム）の UNCRD による開催に協力する。 両者は、UNCRD と協力し、愛知宣言 2030 の実施に向けた能力構築のための研修を提供する。

<p>11. 生物多様性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 両者は、昆明・モンリオール生物多様性枠組及びラムサール条約の完全実施を支援するため、自然を活用した解決策（NbS）、生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）及び生態系を活用した気候変動適応策（EbA）を含む生物多様性と自然の主流化に関する知識の共有及びプロジェクト機会の開発において協力する。
<p>12. 環境インフラ海外展開プラットフォーム（JPRSI）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 両者は、DMCにおける先進的な環境技術及び質の高いインフラの導入を促進し、JPRSI等を通じて、ADBが資金支援するプロジェクトにソリューションプロバイダーが広く参加することを奨励する。 <p>* JPRSIは、環境課題に対処するパートナー国の政府及び企業努力を、先進的な技術及び質の高いインフラの導入を通じて包括的に支援するため、2020年に日本国環境省が設立した官民パートナーシップ・プラットフォームである。2023年6月現在、482事業者がJPRSIの会員として登録されている。</p>